

岡山県の地震

令和2年(2020年)7月

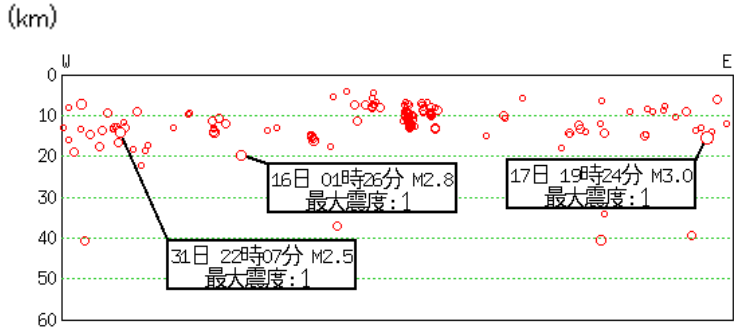
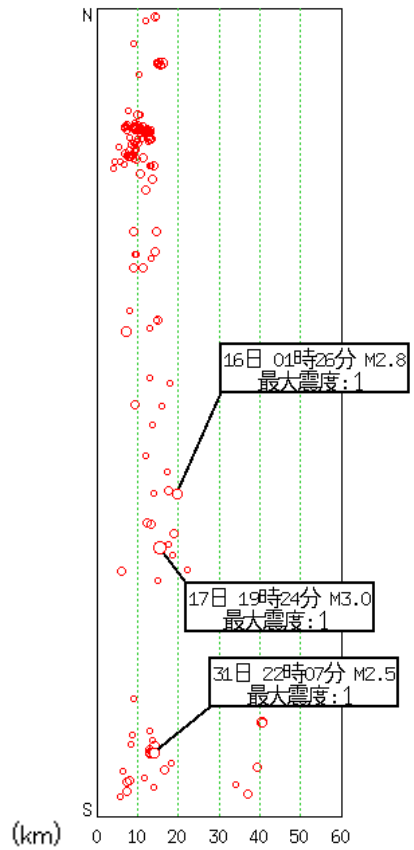
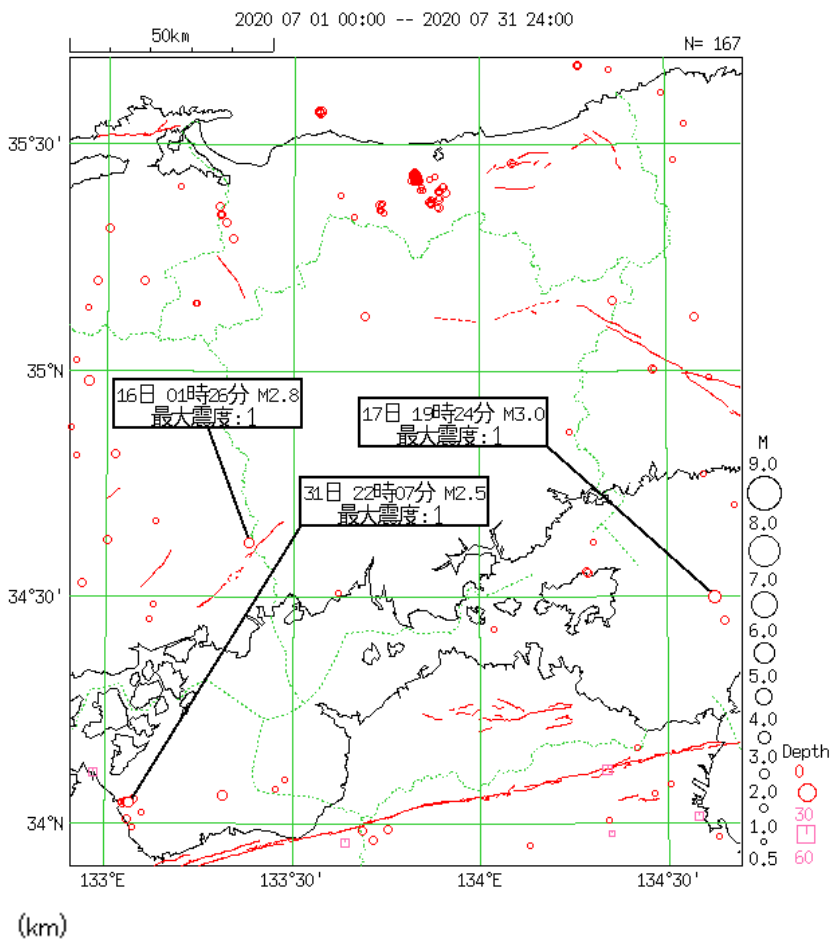
目 次

○岡山県及びその周辺の地震活動（7月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概 況	… 1
岡山県において震度1以上を観測した地震の表	… 該当なし
岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図	… 該当なし
○地震防災メモ No.175	
南海トラフ沿いの地殻変動監視の強化について	… 2

- 「岡山県の地震」は、月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
- この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

岡山県及びその周辺の地震活動(7月)

震央分布図及び断面図



左上 震央分布図 (地図内の細線は活断層を表しています。)
 右上 南北断面図
 左下 東西断面図

図中の注釈(吹き出し)は、震度1以上を観測した地震について最大震度などを表しています。

概況

7月の概況

- ・上図の範囲内で7月に震度1以上の揺れが観測された地震は3回(前月:3回)でした。
- ・岡山県で震度1以上の揺れが観測された地震は7月中に0回(前月:2回)でした。

南海トラフ沿いの地殻変動監視の強化について

プレートの接しているところに生じる「ひずみ」>

海のプレートと陸のプレートが接しているところでは、大きな力が働いてプレートが変形し、ひずみを生じます(「地殻変動」を生じます)。地下の岩盤が伸びたり縮んだりして、ひずみが溜まっている様子をとらえる装置がひずみ計※¹です。

通常地震と「ゆっくりすべり」>

そのひずみが限界に達すると、短時間のうちに岩盤が壊れて(断層運動がおこり)、通常地震が発生することになります。それとは別に、南海トラフ沿いのプレート境界では、通常地震よりもはるかに遅い速度でゆっくりとプレート境界がずれ動く「ゆっくりすべり※²」と呼ばれる現象が発生することがあり、大規模地震の発生に関連性があると考えられています。この「ゆっくりすべり」は地震計ではとらえにくく、ひずみ計などによる地殻変動として観測されます。

「ゆっくりすべり」の監視>

気象庁では、東海地域に設置したひずみ計(下図黒●と白○)を用いた「ゆっくりすべり」の常時監視を行っていましたが、令和2年6月25日11時より、愛知県から高知県にかけて産総研※³が運用するひずみ計(下図赤●)のデータも加えて、南海トラフ沿いの「ゆっくりすべり」の常時監視を行っています。

これにより、南海トラフ全域において、「ゆっくりすべり」の発生を早期かつ広範囲に検知できるようになり、南海トラフ地震に関連する情報※⁴をより迅速に発表することが可能となります。

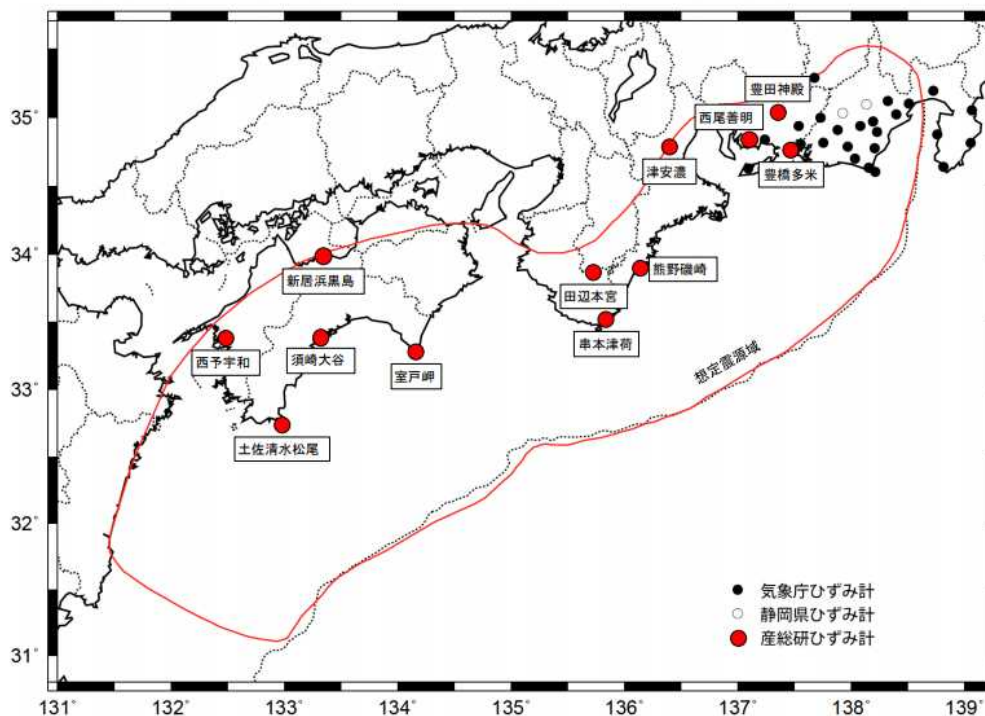


図 南海トラフ沿いのゆっくりすべり監視に用いるひずみ計観測点

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2006/23a/mate01.pdf>

赤い細線は、南海トラフ地震の想定震源域

海の黒い点線は、南海トラフ

※¹ ひずみ計 <https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/strainmeter.html>

※² ゆっくりすべり <https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/nteqword.html>

※³ 産総研(国立研究開発法人産業技術総合研究所) <https://www.aist.go.jp>

※⁴ 南海トラフ地震に関連する情報 https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/info_criterion.html